

【活動紹介】

2015年度活動(途中経過報告)

定例的活動(1~2回/月)

- ・ほたる・メダカの役員会...活動の振り返りと今後の活動
- ・水辺の里の管理...整理、整頓、清掃
- ・関連団体合等への参加...もやいの会、遠賀川流域の会
- ・小さな水族館お魚さん世話活動...中央公民館 毎日

スポット的活動(数回/年)

- ・会報報告事項に関する活動
- ・手延べそうめん等の斡旋活動
- ・曲川源流水辺の里水質分析、ほたるの幼虫調査
- ・遠賀川源流の森再生応援団活動
- ・芦屋・若松海岸クリーン作戦
- ・遠賀川水質保全モニター活動
- ・北九州市水辺環境学習会活動
- ・中央公民館水槽の掃除 →



サケ飼育の状況

中間市中央公民館にて

12月10日 サケ卵 第1陣700個体入荷。

12月14日第2陣250個体入荷、合計950 個体。

12月下旬から順次孵化開始。

現在、水温調整しながら育成中。

2月中旬に遠賀川に放流予定。

(4年後に大きくなって戻ってくることを期待して！)



冷却器とポンプ

冷却用パイプを配備

水槽は黒いシートで遮光



サケの卵



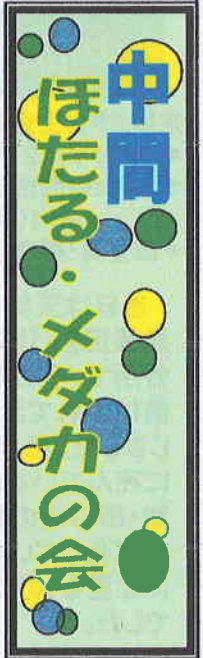
サケ稚魚の大群(1月14日撮影)



福森 明人 会長

新年おめでとうございませう。
昨年・一昨年は、みな様のご支援・ご協力により「曲川源流水辺の里」(通谷)におきましては過去最多数(二二〇個体)のほたるが飛翔しました。そこで、昨年夏以降の活動はほたるの幼虫の飼育・支援は休み、「水路環境の保全」のみとし、自然体にてほたるの生育を見守っております。本年も引き続き、みんなでしっかりとる里中間の自然環境を護り、元気なほたる・メダカを楽しみたいと思います。皆さまのご支援・ご協力引き続きよろしくお願い申し上げます。

今年もみんなで自然環境の保全を推進し
ほたる・メダカを楽しみましょう！



発行責任者
福森 明人
編集担当者
岡崎 直実



もやいフェスタ'27活動報告

12月12日 中央公民館にて、中間市ボランティア連絡協議会による、「もやいフェスタ'27」が開催されました。当会からは、ほたる・メダカ活動のポスターセッションとメダカ・水藻の現物展示を行いました。多くの来場者に自然環境保全の必要性に関心を持っていただく一助になりました。



パネル展示



メダカと水藻の現物展示



シリーズ「この人」(No.13)

深坂保育園 園長 廣松 信児 さん(七重在住)

自然から学ぶ 道徳観と社会性！

曲川源流にて、ほたる幼虫の放流が始まったのが、今から9年前になりますが、月日の経つのは本当に早いと感じます。

当初は水辺も今の様に整備されておらず、市長をはじめ、会の皆さんに手伝っていただきながら、放流致しました。幼虫を見た園児たちは、ほたるになることが不思議でたまらない様子で話を聞いていました。その園児たちも、もう中学生になります。放流以後、何人かの子供たちは、毎年「ほたるを見に行くと、聞いています。ほたる舞う里山の原風景は、本来どこの地域でもあったのです。子供の成長には、自然との触れ合い、自然から学ぶことが道徳観と社会性を育むと論じられております。私たちはメダカが泳ぎ、ほたるが飛び交う水辺を大切に継続し、子供たちの心を育む地域の贈り物として、将来にわたって大切に守っていくとともに、微力ながら今後の活動に協力させていただきたいと、考えております。

中間市 メダカ生息調査を実施！

定例メダカ生息調査報告

- * 期日：平成27年9月27日
- * 場所：中間市全域；主として・曲川（蓮花寺交差点付近）
・堀川（消防署下付近）・下大隈・中底井野（数箇所）など
- * 調査員：福森・岸本・岡崎・高上（4名）

当日は天気も良く、中間市内河川のメダカ等淡水魚の生息状況をパトロール調査しました。調査時期が良かったので、各所でメダカ等の生息が確認できました。しかしながら、以前は群れて泳いでいたメダカもバラバラの状況で寂しさを感じました。毎年ながら水路などの底に生息する貝類が多量に死んでいるのを見ると辛くなります。天敵のカダヤシの増加・田んぼのあぜ道への除草剤散布等でメダカの生息環境が悪化しているように思われます。しかしながら「居るところには居る」ので、中間のメダカは大丈夫だな？と感じた一日でした。



「なぜなぜコーナー」

冬季のメダカ飼育について

寒い冬場はメダカも動きが少なく底でじっとしています。特に水槽（メダカ）の表面に氷が張り付くような時は、メダカのピンチです。昨年生まれの体長1cm未満の子メダカは特に要注意！

①水槽は出来れば暖かい場所（日があたる・北風が当たらない・棚は避ける）が良いです。又水槽周りにダンボールや発泡スチロールなどで防寒するとより良いでしょう。

②エサやりは週に1～2回（場合によっては月に2～3回）程度とし、量は夏の半分程度かと思えます。

③手入れ：秋にトンボが卵を産み落としていると考えられますので、「ヤゴ」の始末が出来れば安心でしょう。

④水槽の底には落葉や砂などメダカが寒さを防ぐものがあつた方がよいでしょう。

⑤必要以上にメダカを刺激しない。（水替えはしないで、減ったら追加する程度）

出来れば、秋には、冬対策を含め水槽の清掃等手入れを済ましておくと安心と思われます。

水辺の里の整備、清掃活動

当会では毎月第3土曜日 9時から 2時間ほど曲川源流水辺の里（通谷1丁目）に集まり、清掃活動や水路の一斉保全活動を行っています。

みなさま！ ご参加 お願いします！

第15回全国メダカシンポジウム報告

報告者：岸本副会長

- * 期日：平成27年8月22日～23日
- * 場所：兵庫県豊岡市
- * 会場：大磯町「じばさんTAJIMA」
（コウノトリの郷(サト)公園コウノトリ文化館）

22日の早朝小倉発の新幹線で、今村技術顧問・大島顧問と三人で一路豊岡市に向かいました。乗継・乗継での長旅の感じで、少し疲れました。

今年は第15回大会、実行委員会（委員長：岡本邦夫氏）のおもてなしを受けながら会場に入りました。

大会テーマは「みんななかよく 21世紀をおよう」のもと、オープニングの和太鼓演奏があり、豊岡市長・岩松会長挨拶で始まりました。

その後、各団体から活動報告がなされ、同行の小嶺水辺の教室「今村技術顧問」からは「飼育下のメダカの寿命」発表、当会は「活動概要発表」（岸本副会長）を行いました。

どの団体も、個性があり、自然環境への取り組み熱意は素晴らしいものがあると感じました。我々ももっと頑張らんといかんあ〜と思った次第でした。

二日目は会場をコウノトリ郷(サト)公園に移し、ビオトープにてコウノトリやメダカの鑑賞をさせていただきました。

やや山間の感じでしたが、広大なビオトープがあることに（地権者：行政の協力）感銘を受けました。コウノトリ文化館内にはコウノトリに関わる様々な掲示物がありました。

午後からは岩松日本めだかトラスト協会会長の「メダカの観察」講義を受けました。メダカの誕生を顕微鏡・モニターにより観察ができて、多くの参加者は感動を受けていました。あの小さなメダカの卵を顕微鏡で覗くと、心臓・脾臓などの色鮮やかさにはビックリさせられました。

今回も大いに感動した大会となり、全国にメダカはもとより自然環境保全に取り組んでいる団体がたくさん居られることに喜びと安堵感を抱いた次第でした。



兵庫県立「コウノトリの郷(サト)公園」(豊岡市)に棲息するコウノトリ

メダカの誕生講義状況



お知らせ

遠賀川をみんなで「きれい」にしましょう